

地球環境への取組み

自らの事業による環境負荷を極力低減するとともに、環境問題の解決に向けてできる限りの協力・働きかけを行なっていきます。

IT化による環境負荷の削減 ～紙を使用しないビジネスへの転換～



大和証券株式会社
専務取締役 管理本部長 兼
制度ビジネス担当

深井 崇史

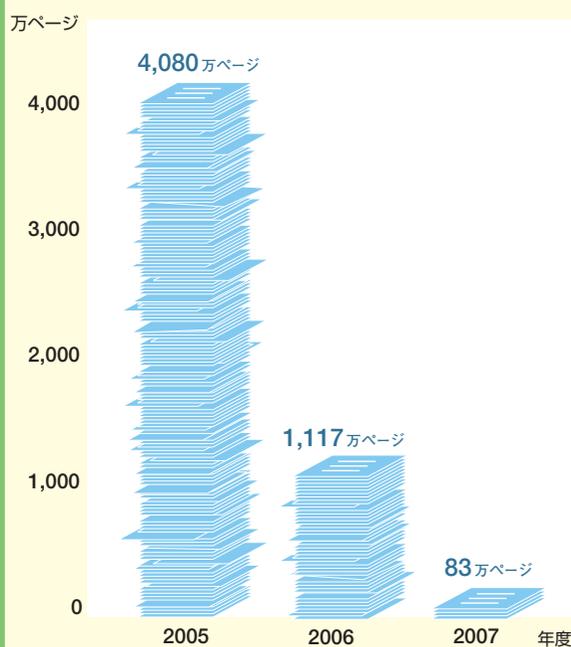
従来、営業店とお客様の間、本部部署とデータセンターの間では情報の伝達を紙ベースで行なっていました。取引の注文伝票から精算・決済処理、税・経理・帳簿管理、またお客様への取引報告書などの事務処理に、多量の紙を使用していたのです。大和証券では、2005年度より電子帳票システムを導入、紙から電子データを活用した事務への変革を推進してきました。その結果、紙出力量の大幅な削減に加え、営業店に帳票を輸送するための物流量削減、帳票の保管作業の削減を実現しました。また、注文伝票や営業店へ送付していた社内事務帳票の電子化を行いつつ、現場部署と協働で電子データを用いた事務処理への転換を進めたことで電子データ活用型事務処理を行える体制もほぼ整いました。

それらの取組みにより大和証券の社内用帳票出力量は、2005年度の4,080万ページから2007年度には83万ページと2年間で97%減少しました。IT化のメリットは、環境負荷の低減にとどまりません。社内事務・物流・発送の合理化等による約28億円のコスト削減、事務ミスの排除、非常時の業務継続体制の確立など、多くの経営上のメリットがもたらされています。

2008年度は全国70万口座といわれる上場会社持株会のペーパーレス運営に取り組んでいます。また、ブレードサーバ*1およびシンクライアント*2等の仮想化技術導入による効率的なシステムインフラ基盤の確立により、効率化と環境配慮の両立を目指したグリーンITへの取組みも進めていきます。

大和証券グループは、2007年12月に日経コンピューター誌の「IT力」総合ランキングで全国第3位に選ばれました。今後もITを有効に活用することにより、経営効率の改善と環境負荷の低減を進め、オフィスの環境負荷低減のモデルケースを示していきたいと考えています。

社内用帳票類出力枚数(大和証券)



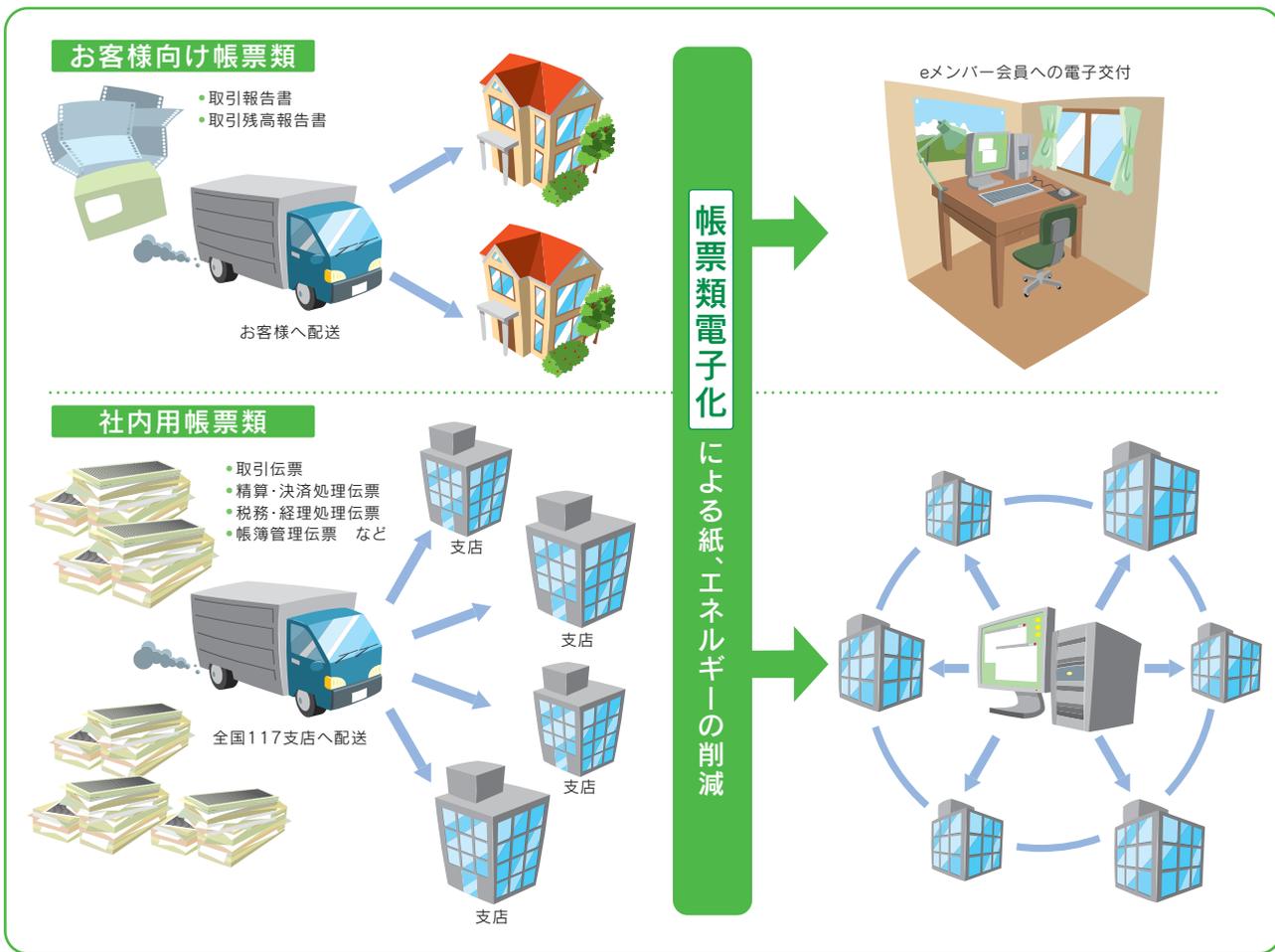
*1 ブレードサーバ

メモリ・ハードディスク・MPU(マイクロプロセッサ)といったサーバの機能を実現するために必要な要素をすべて装着した1枚の基盤(サーバブレード)に、複数枚のサーバを差し込んで利用するサーバシステム。

電源ケーブルや冷却装置、外部インターフェイス等を、各サーバブレードが共有することにより、狭いスペースに大量のCPUを集積でき、電力効率も優れる。またサーバールームの空調管理のエネルギー削減にもつながる。

*2 シンクライアント

パソコン端末にハードディスクを持たず、WordやExcel等のアプリケーションおよびすべてのデータをセンターサーバで集中管理するパソコンの新たな仕組み。各自の席にハードディスクを持つパソコンが1台ずつある状況と比べ、消費電力の大幅な低減を実現している。また、そのほかの効果として、端末にデータが一切残らないことからセキュリティの大幅な向上、および社内であればどこからでも利用可能なことから災害時の業務継続体制の確立が容易であることが挙げられる。



ダイワCI生物多様性保全基金

ダイワCI生物多様性保全基金は、世界的な環境NGOであるコンサベーション・インターナショナル(CI)とパートナーシップを組み、生物多様性のホット・スポット*と呼ばれる地域のなかから、世界7カ国8地域の世界自然遺産周辺地域を選び、生態系の保全活動を行うプログラムです。ダイワ・エコ・ファンドの販売・運用によって得られた大和証券グループの収益金の一部をもとに運営されています。ダイワCI生物多様性保全基金から拠出された資金は、これまで違法伐採等による収入確保に依存せざるを得なかった地元のコミュニティに環境保全型ビジネスを根付かせるためのさまざまな支援に活用されます。具体的には、エコ・ツーリズムやカカオやコーヒーのアグロフォレストリーを立ち上げるためのビジネス研修や会計・財務管理研修のための費用として活用されます。2007年11月に開始され、現在、ベリーズ、ドミニカ、メキシコでパイロット・プロジェクトが始まっています。



パイロット・プロジェクト実施中の世界自然遺産 シアン・カアン(メキシコ)

* 生物多様性が豊かでありながら、同時にもっとも危機に瀕している地域。地球上で34カ所が指定されている。

WEB版 活動報告 ●プロジェクト対象地域